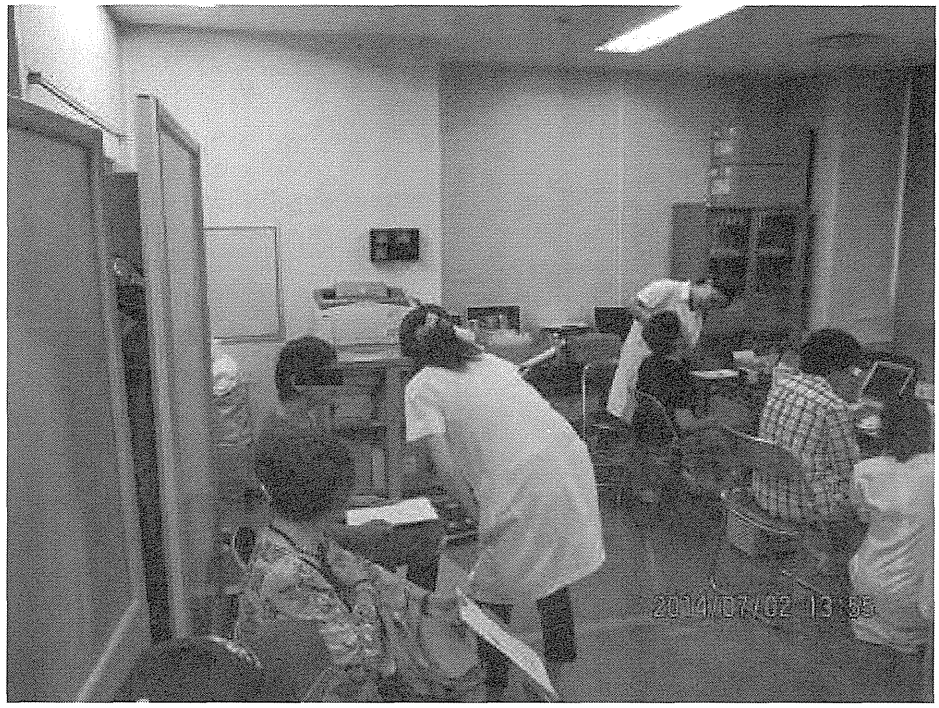
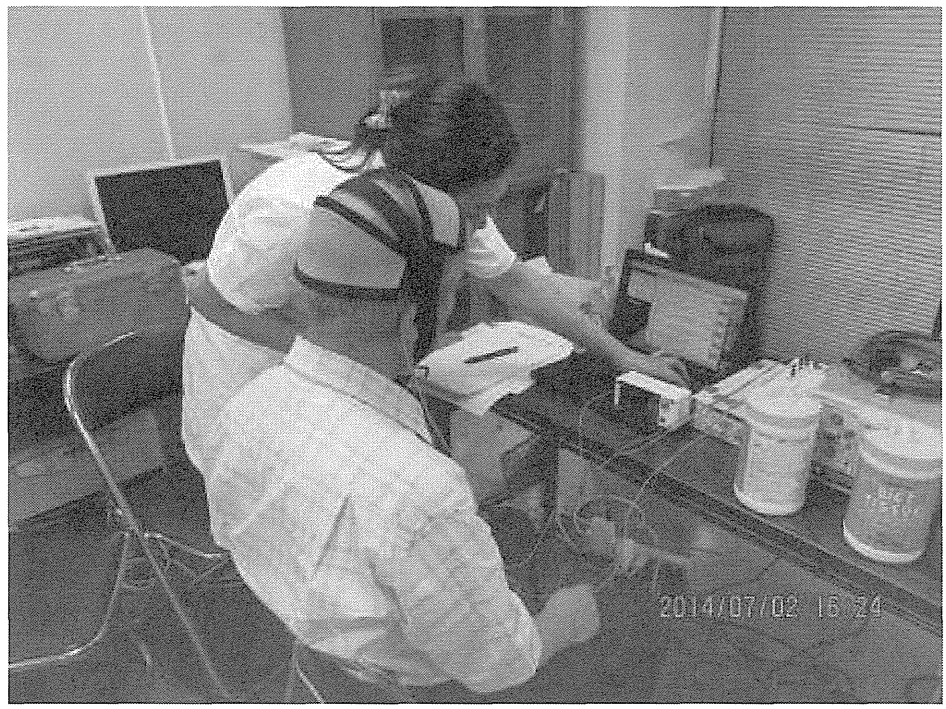




＜測定風景＞

③取組みが軌道にのるための工夫（患者さんのピックアップ・フォロー体制つくり、等）

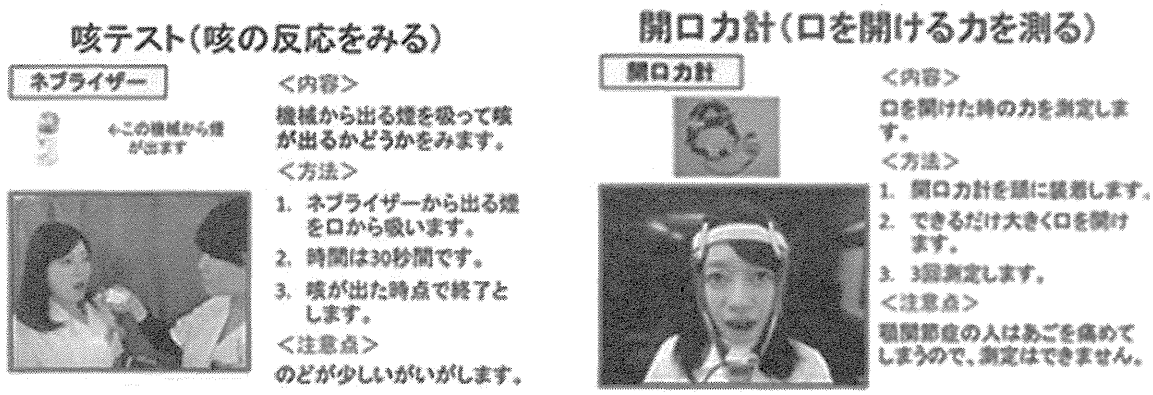
調査の目的、情報の共有を深めるため、小山市歯科医師会、歯科衛生士会、小山市保健所と密に連絡を取り合った。

参加者には、調査後に文書にてフィードバックを行い、現在の口腔・嚥下機能の状態、機能維持の必要性、機能低下の際に認められる症状についても説明を行った。

④苦労した（している）点

初めての取り組みだったこともあり、歯科医師会、歯科衛生士会、市役所との事前の情報共有がスムーズにいかない部分があった。測定方法がわかりにくい物については、ポスターでわかりやすく提示した。女性の参加者は多いが、男性の参加者は少なく、男性に対しての調査告知を何度も行う必要があった。

調査項目が多く、測定に時間を要したため、調査当日の参加者への十分なフィードバックが困難であった。後日、文書にて報告した。



＜測定方法を示したポスターの一例＞

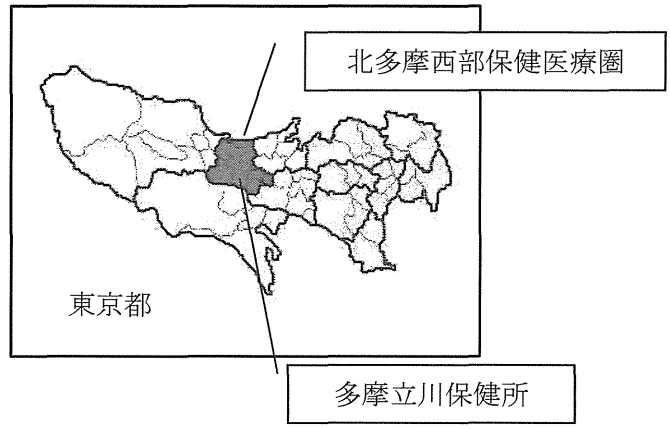
⑤今後、めざす目標

この調査は今後も継続的に行う予定である。歯科医師会、歯科衛生士会、市役所と連携し、地域高齢者に対しての口腔・嚥下機能調査、フィードバックを継続して行うことで、口腔・嚥下機能の関心を高め、健康増進を目標とする。また機能低下が疑われた場合は早期に必要な介入ができるような体制を連携医療機関に協力を仰ぎ整えることができればと考えている。

＜有効事例集 14＞
高齢者の摂食嚥下・栄養を支える取り組みの紹介
～地域に開かれた病院・診療所・施設・団体～

１．基本情報
①病院・診療所名（組織名称）
北多摩西部保健医療圏摂食・嚥下機能支援事業の拠点
東京都多摩立川保健所
住所：〒190-0023　東京都立川市柴崎町 2-21-19　電話：042-524-5171

保健所外観

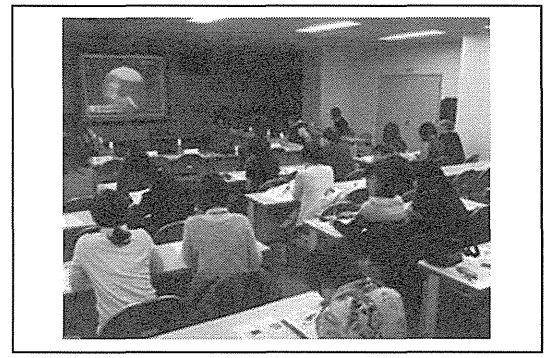


多摩立川保健所の所管する北多摩西部保健医療圏は、東京都多摩地域の中央やや北部に位置し、南の多摩川から狭山丘陵に連なる武蔵野台地に広がる地域となっている。鉄道は JR 中央線と青梅線が管内をほぼ東西に貫くほか、JR 南武線、JR 八高線、西武拝島線、多摩モノレールが管内の交通をつないでいる。

【保健所所管区域】立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市
（北多摩西部保健医療圏域）

②主な歯科保健事業担当職員
歯科衛生士１，歯科医師１
（歯科保健事業を所管する保健医療係は、他に医療連携、医療安全、医事を担当）

２．摂食嚥下・栄養障害への取り組み
①多摩立川保健所 摂食・嚥下機能支援事業
・摂食・嚥下機能支援連絡会
・摂食・嚥下機能支援事例検討会
・市町村支援



これまでの取り組み
◆摂食・嚥下機能支援をテーマにした会議体の設置（当初は地域摂食機能支援連絡会）
地域で摂食機能支援を行なうための課題の整理、具体的方法について検討
◆施設調査（地区診断）
◆研修会の開催
医療関係者、実務者を対象に高齢者の摂食・嚥下機能支援に関する知識を普及
◆評価医研修
医師、歯科医師を対象に摂食・嚥下機能の評価診断を行う人材の確保
◆摂食・嚥下機能支援センターの設置
武蔵村山病院、つくし会新田クリニック
◆「北多摩西部保健医療圏　摂食・嚥下機能支援事業ガイドライン」、「摂食・嚥下機能支援の手引」の発行
◆普及啓発
ＤＶＤの作成・配布、介護職・住民向け講演会
◆摂食・嚥下リハチーム専門研修
歯科衛生士、看護師、ST、PT、OT、栄養士等を対象に口腔ケア、リハビリに関する研修
◆北多摩西部保健医療圏脳卒中医療連携パス「生き活きノート」の活用
◆事例検討会の実施
◆薬局における摂食嚥下機能支援
薬剤師会と共催の研修会の開催、薬局での普及啓発ツールとしてポスターの作成・配布
など

②特徴
１）地域の特性
保健所が所管する北多摩西部保健医療圏は、面積約 90 平方キロメートルの広域にわたる。圏域には、多摩地域の交通の要衝であり、業務、商業の中核都市として栄える立川を有する他、他の区域はベットタウンの色彩を色濃く呈している。また、大学や研究機関も数多く立地している。
圏域の人口は約 64 万人、高齢者率は　22.5%の地域である。

２）保健所の特徴
東京都の保健所では、昭和 60 年代から歯科保健事業の取組の一環として、子どもの食べ方の問題に取り組みを始め、その後は障害児者の摂食・嚥下機能障害についても様々な取組を行って来ている。このような背景のもと、多摩立川保健所は、所の独自事業として平成 17 年度に障害児を対象とした摂食・嚥下機能支援事業を開始し、平成 18 年度には生涯わたる摂食・嚥下機能支援をテーマに高齢者を対象とした取組を開始した。
北多摩西部保健医療圏摂食・嚥下サポートシステムの構築に至った先駆的な取組は都のモデルともなり、現在では、東京都の摂食・嚥下機能支援事業を牽引する保健所となっている。

３）他機関との連携
北多摩医師会、各市医師会、歯科医師会、薬剤師会、圏域６市、居宅介護支援事業所連絡会、圏域６市、武蔵村山病院、その他、会議や研修会、事例検討会に参加のあった医師、歯科医師、歯科衛生士看護師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、武蔵村山病院など、様々な団体、組織と多様な職種との連携ができている。
医師会、歯科医師会、薬剤師会や市は、保健所の会議を通じて情報提供や意見交換を図ることができている。居宅介護支援事業所の連絡会には、調査の協力依頼やシステムの説明で保健所が会に出向き、事業への理解を深めていただいている。
また、貴重な連携構築の場は事例検討会となっており、多くの関係者が集まり、事例を通したディスカッションや多職種で編成されるグループワークで顔のみえる関係ができてきている。特に、事例を共

有することで、互いの役割や力量もわかってくることから、保健所と参加者の連携はもとより、参加者同士の新たな連携が生まれる機会となっている。

③地域への普及・啓発に効果的であった取り組み

保健所の仕事の進め方の特徴は、地区診断から始まるヘルスプロモーションの推進である。そのため、摂食・嚥下機能支援においても、施設調査をもとに地域に実態を伝え、地域の人材をはじめとする社会資源とネットワークをもとに都民を支援するしくみづくりに取り組んで来た。事業の内容は、会議の設置や研修会、事例検討会、ツールの作成等で多岐にわたるが、各場面で事業に関与する人、組織、団体が増えて行く取組のプロセスが本事業の啓発に効果的であったと考える。

④取り組みが軌道にのるための工夫（患者さんのピックアップ・フォロー体制つくり、等）

地域に摂食・嚥下機能支援事業を普及・啓発するにあたっては、地域の推進力となる要が重要である。当保健所の取組では、精力的に在宅医療に取り組むとともに、北多摩医師会の会長である新田國夫医師の献身的な協力を得ることができ、広域にわたるシステムの構築が円滑に進んだ。また、すでに活動していた北多摩西部保健医療圏脳卒中医療連携推進協議会との協働も効果的であった。

現在は、取り組みが継続できるよう、事業の中心となっている事例検討会において、医療関係者、介護関係者を対象としたプログラムと医師、歯科医師を対象としたプログラムを設定し、多職種により事例の検討による連携の強化、摂食・嚥下機能評価の診断スキルの向上など、参加者の満足度を維持できるよう会の運営を工夫している。

⑤苦労した（している）点

「地域摂食機能医支援連絡会」において、地域で摂食・嚥下機能支援を行うための課題の整理、具体的な方法を検討した結果、在宅療養者を対象としたシステムづくりに取り組むこととなったが、在宅をテーマにしたことから、地域のかかりつけ医、かかりつけ歯科医をはじめ、多職種の事業参加が必要となった。また、保健所の独自事業であったこともあり、限られた予算の中で実施して行かねばならない。このような状況の中で取組を進めるにあたり、地域の合意形成と協力を得るプロセスに時間と労力が必要であった。

現在は、システムも充実してきており、事業を進めるにあたっては、多くの団体、組織、多くの職種が共に地域の摂食・嚥下機能支援に取り組んでくれているが、個々の事例をみると、評価からリハビリにつながる事例は数少なく課題となっている。

⑥今後、めざす目標

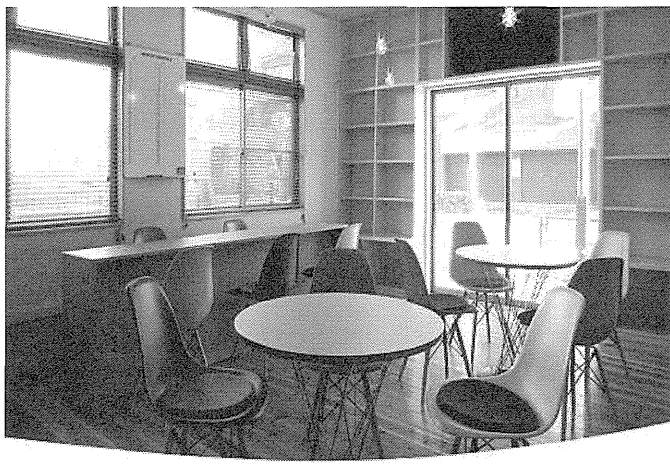
多摩立川保健所は、都の中でも先駆的に摂食・嚥下機能支援に取り組んできており、特に、在宅療養者を対象としたサポートシステムは平成21年度より稼働させて来た。

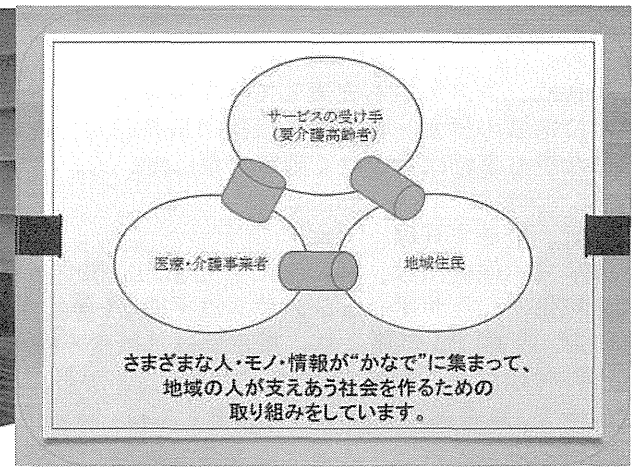
一方、平成23年度より、東京都は「摂食・嚥下機能支援事業」を区市町村包括補助事業に位置付け、区市町村における取組を牽引していることから、今後は、市との役割分担が必要になる。このような状況の中で、東京都の保健所の役割としては、圏域全体に係る基盤整備や情報交換の場の設定が考えられ、市は相談窓口の設置や患者をとりまく医療、介護、福祉にわたる多職種が密に連携できるよう、また、地域住民も摂食・嚥下機能支援、すなわち「食べることの支援」に役割をもって参加してもらえるよう地域特性に応じた体制づくりが期待される。

摂食嚥下機能を支援するシステムは地域包括ケアシステムの構築につながるものであり、保健所は摂食嚥下機能支援への取組のノウハウを積極的に市に提供し、より都民が利用しやすいシステムとなるよう、市との協働を目指している。

＜有効事例集 15＞
高齢者の摂食嚥下・栄養を支える取り組みの紹介
～地域に開かれた病院・診療所・施設・団体～

１．基本情報
①病院・診療所名（施設名）
一般社団法人　暮らしの保健室　かなで
住所；〒132-0031 東京都江戸川区松島３丁目 41-10　　☎；03-5661-7567





②病床数
無床

③職種および人員
常勤；ケアマネージャー１名、
非常勤；ボランティアスタッフ１名、管理栄養士１名

２．摂食嚥下・栄養障害への取り組み
①特徴
・地域住民や地域の医療・介護専門スタッフへの情報提供と連携
　暮らしの保健室開設間もないため、実質的な取り組みはこれから。

・地域の特性
人口 67 万人弱、東京都の最東部に位置し江戸川を挟んで千葉県と隣接する。地元の歯科医師会が障害者の摂食嚥下支援を行っている。地域包括支援センターなどと協力して、地域の歯科医が地域住民向けの講座や講演会を定期的に行っている。

②地域への啓発に効果的であった取り組み
今年１月に暮らしの保健室かなでを立ち上げ、効果的な取り組みは今後に期待している。

③取り組みが軌道にのるための工夫（患者さんのピックアップ・フォロー体制作り，等）
１）地域の町内会や民生委員・ファミリーヘルス推進委員などとの連携
２）歯科関連の資源（歯科衛生士・言語聴覚士・管理栄養士・介護事業所など）の実態調査

③苦労した（している）点
高齢者の摂食嚥下と栄養を支える仕組みは、歯科関連のみならず医療機関・介護サービス事業所・専門職養成機関など広範囲に及んでいる。更に対象となる高齢者は、在宅で支えられている方や有料老人ホームなどで支援を受けているなど、多様な住環境で生活している。
その半面、それぞれの情報は互いにオープンではなく、むしろ予想以上に狭い領域で情報交換が行われている。そのため、有効な情報や取り組みが地域住民へ届きにくく、支援を必要とする人が必要な情報を得るツールがない。社会資源の数や量といった情報はあっても、どのような支援が出来るのかといった、能力や機能の評価、相互の連携手段などが少ないと感じている。

⑦今後，めざす目標
１）地域の町内会への呼び掛けと案内（嚥下障害の方も食べれる介護食などの紹介と試食会など）
２）医療と介護の連携活動（ベイエリア連携の会で講演会の企画）
３）摂食嚥下の困難な高齢者を介護している介護事業者からの問い合わせ相談
４）介護サービス提供事業者との事例検討

＜有効事例集 16＞
高齢者の摂食嚥下・栄養を支える取り組みの紹介
～地域に開かれた病院・診療所・施設・団体～

１．基本情報
①実施場所：東京医科歯科大学
②対象：医学科・歯学科学生（第３学年）　計 162 名
③日程：第１日目（84 名）、第２日目（78 名）

高齢化社会にある日本の医療現場では、一部の科を除けば高齢患者を診察する機会が必ずあると言っても過言ではない。さらに最近になって有病高齢者人口は、年々増加しており、将来いずれの科を専攻するにも加齢に伴う身体・精神諸機能の変化や、高齢者の疾病の特徴を理解しておくことは重要である。特に、高齢者・有病高齢者が直面している身体的な不自由や日常的な苦労を実際に体験し、その気持ちを理解することは非常に重要である。

東京医科歯科大学の特徴として、医学部と歯学部の学生がともに老年医学を学習する環境にある。今後必要性が増す高齢者・有病高齢者治療に対しては、医科または歯科単独でのケアでは十分ではなく、医科と歯科の連携が必要不可欠である。さらには、医科・歯科という枠組みだけでなく、地域を含めた包括的な治療体制が重要である。従って、本実習では、医学部と歯学部の学生に対して、高齢者・有病高齢者（片麻痺）の状態を疑似体験することにより、高齢者・有病高齢者の身体的・精神的な苦労を理解することを目的とした。

２．高齢者疑似体験・片麻痺疑似体験実習の詳細

① 学生を医学科・歯学科混成の３人１組の班に分けた。

② 高齢者疑似体験実習においては、高齢者疑似体験装具を装着した学生は、歩行、階段昇降、自販機の使用、疑似薬の開封、医療面接を体験し、高齢者の歩行の困難さ、階段昇降での苦労、手指感覚の低下した状態の困難さ、視力・聴力低下状態の苦労を体験した。他の２名は介助者になってもらい、効果的な介助の仕方を体験した。

③ 片麻痺疑似体験実習においては、片麻痺疑似体験装具を装着した学生は、歩行、ソファ椅子起座、ベッド体位変換、問診票記入を体験し、片麻痺の歩きにくさ、片麻痺患者の病院待合室での苦労、片麻痺患者のベッド上での体位変換、片麻痺状態での筆記の困難さを体験した。

④ 上記２つの疑似体験に加えて、要介護高齢者用の介護食を試食し、普通食との違いを体験することによって、嚥下障害を有する高齢患者の気持ちを理解するよう実習を行った。

⑤学生の教育に効果的であった取り組み

本実習では高齢者疑似体験、片麻痺疑似体験、介護食試食と 3 種の異なった実習を導入し、学生の高齢者・有病高齢者に対する意識改革を目指した。特に多かった学生からの意見としては、高齢者疑似体験では手指感覚や視覚・聴覚の衰えによる苦労を実感したというもの、片麻痺疑似体験では利き手・利き足の自由を奪われることの辛さを理解できたというもの、介護食では決して美味とは言えない食事を摂ることの大変さを実感したというものであった。これらの不自由に対する改善策を考察させることで、将来学生自身が高齢者を診察・診療する立場になった際に必ず役立つと考えられる。

⑥取り組みが軌道に乗るための工夫

本実習を行う時期について、専門課程に進級して間もない第 3 学年の時期に行うことで、なるべく早期に高齢者・有病高齢者の苦労を実感してもらうことで、学生達の意識改革を行えるよう配慮した。また、1 つの実習で 3 つの異なる項目を組み込むことにより、高齢者の直面している身体的な苦労を多方面から体験できるように工夫した。

⑦苦労した点

実習の対象が第 3 学年の学生達ということで、まだ臨床に対するはっきりとしたイメージを持っている者が少なかったことに難しさがあった。そのため、医療面接や問診票など第 3 学年の学生達でも充分にイメージのできる疑似体験環境にすることによって、実習中も医療者としての意識を持たせるよう工夫が必要であった。

⑧今後、の目標

実習後のレポートでは、ほとんどの学生が高齢者・片麻痺患者の苦労を理解し、今後、高齢者は障がいのある患者に対していたわりを持って接するようにしたいという気持ちを持ったようである。本実習を行ったことにより、高齢者・片麻痺を疑似体験した学生達の意識が高まったと言えよう。今後は、本実習に加えて、車椅子を使用した実習や病院内の一部を歩行するような実習を計画している。

D．考察

報告書の件数は多くは無かったが、多種多様な施設・会からの詳細な報告があり、今後連携を予定している病院や施設にとって有用な情報が含まれていると思われた。今後内容を精査した上で引き続く調査事業につなげたい。

E．結論

今回の報告では、多種多様な取り組みが紹介されており、そのポイントや苦労した点が詳細に挙げられていた。本報告は、今後連携を始めるときの有用な参考資料になると考えられた。

F．健康危険情報

現在のところ報告すべき情報はない。

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表（学会以外の講演会も含む）

1. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 第 3 回大分県病院協会栄養部会研修会, ホルトホール, 大分市、大分県, 2015 年 2 月 28 日
2. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 小田原市保健センター, 小田原市歯科医師会, 小田原市, 神奈川県, 2015 年 2 月 26 日
3. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 第 23 回茨城県歯科医学会, 茨城県歯科医師会, 水戸プラザホテル, 水戸市, 茨城県, 2015 年 2 月 22 日
4. Haruka Tohara: Oral Rehabilitation for Dentist, Rehabilitation in swallowing disorders seminar, Dental hospital, Khon Kaen University, Khon Kaen city, Thailand, Feb 18, 2015
5. 戸原玄:口腔ケアや訓練的対応を踏まえた評価の仕方, 嚥下機能評価研修会, 第 9 回 PDN VE セミナー, NPO 法人 PEG ドクターズネットワーク, 石川県地場産業振興センター, 金沢市, 石川県, 2015 年 2 月 15 日
6. 戸原玄:摂食・嚥下障害のアセスメント, 在宅歯科医療推進事業研修会, 熊本県歯科医師会, 熊本歯科衛生士専門学校, 熊本市, 熊本県, 2015 年 2 月 7 日
7. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 広島県歯科医師会館, 広島市, 広島県, 2015 年 1 月 30 日
8. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, メディケアフーズ展 2015, 東京ビッグサイト, 江東区, 東京都, 2015 年 1 月 29 日
9. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 高齢者の食支援を考える会 設立1周年記念摂食嚥下講演会, 高齢者の食支援を考える会・所沢市歯科医師会 食支援ネットワーク委員会, 所沢市保健センター, 所沢市, 埼玉県, 2015 年 1 月 22 日
10. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 第 1 回東海摂食栄養フォーラム, 東海HEI和マニア, 今池ガスビル, 名古屋市, 愛知県, 2015 年 1 月 17 日
11. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 平成 26 年度第 2 回摂食嚥下障害支援歯科医師養成研修会, 岐阜県歯科医師会, 岐阜県歯科医師会館, 岐阜市, 岐阜県, 2015 年 1 月 11 日
12. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 平成26年度摂食・嚥下・食支援人材育成研修会, 鹿児島県歯科医師会, 鹿児島県歯科医師会館, 大島郡医師会館(サテライト会場), 鹿児島市, 鹿児島県, 2014年12月21 日
13. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 第 6 回高知口腔ケアフォーラムーがん治療をささえる口腔ケアー, 特別講演, 高知大学医学部臨床講義棟第 3 講義室, 南国市, 高知県, 2014 年 12 月 13 日
14. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 摂食嚥下セミナー2014, 岩手医科大学, 盛岡市, 岩手県, 2014 年 12 月 9 日
15. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 医科歯科連携研究会 2014, 東京保険医協会・東京歯科保険医協会・千葉県保険医協会, 東京保険医協会セミナールーム, 新宿区, 東京都, 2014 年 12 月 6 日
16. 戸原玄:摂食嚥下障害の評価と訓練の実際, 富士見会, 愛媛県歯科医師会館, 松山市, 愛媛県, 2014年11月 29 日
17. 戸原玄:摂食・嚥下のアセスメント, 嚥下内視鏡検査実技・実習コースアドバンスコース, NPO 法人 歯科医療情報推進機構, 新宿 NS ビル, 新宿区, 東京都, 2014 年 11 月 20 日